

講演会レポート②

「池袋学」運営事務局

東京芸術劇場と立教大学が連携して、二〇一四年からスタートした公開講座「池袋学」の二回目、元講談社編集者の丸山昭氏による「トキワ荘の時代」『漫画』から『マンガ』へ』を聴講しました。会場の東京芸術劇場シンフォニースペースには、客席正面に巨大なスクリーンが設けられ、トキワ荘の室内の様子やふすまに描かれた住人達の寄せ書きなど当時の写真が大写で紹介されました。トキワ荘は、豊島区椎名町五丁目二二五三番地（完成当時の住所）にあった木造二階建てのアパートで、一九五二年（昭和二十七年）から一九八二年（昭和五十七年）までの間、数多くの漫画家を輩出しました。

漫画家は手塚治虫を筆頭に、寺田ヒロオ、藤子不二雄（藤子不二雄A、藤子・F・不二雄）、鈴木伸一、つのだじろう、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、園山俊二……ら日本のマンガ文化を代表する顔ぶれで、現在のクールジャパンの先駆け、рутツとも言える人たちです。

講師の丸山昭氏は、一九五三年（昭和二十

八）に講談社に入社し、『少年倶楽部』や『少女クラブ』を担当したことからトキワ荘に足しげく通い、編集者の立場で伝説の漫画家たちとの交流が始まったとのことで、さまざまな個性が、いろいろなエピソードを通して語られ、六十年前の若き漫画家たちの日常の様子が再現されました。

■トキワ荘の謎

なぜ、トキワ荘の住人がすべて、一人残らず有名になったのか？ この答えは実に単純明快です。一九四七年（昭和二十二年）に創刊された『漫画少年』（学童社）に、全国の若き漫画家の卵たちが投稿するページがありました。その中でも才能が認められ雑誌に連載が決まると、出版社が彼らを地方から上京させ、下宿先として提供されたのが、トキワ荘だったのです。

当日の資料には、石森章太郎〓宮城、手塚治虫〓兵庫、寺田ヒロオ〓新潟、藤子不二雄〓富山（二人とも）、水野英子〓山口、よこたとお〓福島……等とあり、全国から漫画家の精鋭が集まっていたことがわかります。また、リーダー格の寺田ヒロオが「新漫画党」

を結成した際（一九五四年）、メンバーの年齢は、総裁の寺田ヒロオ〓二十三歳、藤子不二雄（A）〓二十歳、F〓二十一歳）、石ノ森章太郎〓十六歳、赤塚不二夫〓十九歳、つのだじろう〓十八歳、園山俊二〓十九歳……と、その若さに改めて驚きます。

余談として、この雑誌に投稿していたメンバーで、漫画家にはなれなかったのですが、後に、ほかの分野で力を発揮した人々ということで、横尾忠則、筒井康隆、和田誠、篠山紀信、黒田征太郎、平井和正、眉村卓らの名前が挙げられました。マンガの草創期には、かくも多彩な才能が湧き出ていたのです。

■「漫画」から「マンガ」へ

今年の四月に京都精華大学の学長に漫画家の竹宮恵子さんが就任しました。いまや全国の大学で漫画を授業で取り上げない所はないと言われるほどです。丸山氏は、「漫画」とはギャグや風刺を使って他愛のないことと笑わせることが目的であるのに対して、「マンガ」はユーモアの要素を持つストーリーや情報を伝えるのが目的だと定義されました。

「マンガ」は、単に笑いを誘うだけの「漫

画」を超えて、ストーリーの力で悲しみや恐怖、愛情までも表現し、歴史や思想、人々の暮らし、経済……まで扱う領域へと広がってゆきました。

■悪書追放の時代

順風満帆のように見える漫画の歴史も、一九五〇年代の半ば頃には、苦難の時期を迎えました。「漫画は子どもの精神的発育を阻害する」「漫画は悪だ」「漫画を掲載した図書は悪書であり追放すべきだ」という声が突如として高まり、全国に広まったのです。教育学者や児童文学者、PTAや子供を守る母親の会などが漫画はけしからんと主張し、これにマスコミが乗り、政治家や行政、警察までもが同調して、漫画を「売らない、買わない、読ませない」という不買運動にまで発展しました。

ついには小学校の校庭に漫画を集め、火をかけて燃やしてしまう、ということも起こったそうです。秦の始皇帝の焚書坑儒やナチスのヒトラー、魔女狩りにも匹敵する愚行と思われまます。この時代は、漫画家と名乗れない時代、親からは袋叩きに遭い、勘当もされる

ため、大つぴらには言えない時代でした。

手塚治虫も、子どもの教育を考える会などに呼ばれて、さんざん吊るし上げられたそうで、「漫画のどこが悪いというのではなく、漫画だからいけないと言われる」と寂しそうだっただけです。ある時、旧帝大の物理学の先生が、人工衛星に人が乗るなどというよなばかげた事は、子どもに見せるべきではない、全くもってけしからん、と言われたそうですが、その二年後にソ連のスパートニクが飛んだそうです。

そのようなわけで、トキワ荘の二階はオアシスでした。外からは受け入れてもらえず、親からは袋叩きにされ、揚げ句は勘当され、自分が漫画家だということを、大つぴらには言えない時代の中で、水滸伝の梁山泊のように、漫画を支えあつた仲間がそこにいたのです。